

例 言

- 1 本紀要第6号は、名古屋市北区味鋺の白山藪古墳調査の報告を特輯するものであるが、第5号に収載された伊奈・松村氏の「昭和20年代における愛知県古墳時代遺跡分布調査（尾張編）」を承けて、その三河編（その1）をここに付載した。
- 2 白山藪古墳は、昭和25年9月に元南山大学教授 故中山英司氏を発掘責任者として、南山大学人類学研究所が発掘調査した古墳である。調査員は、故伊奈森太郎（元人類学研究所嘱託）・辻元一（元同技師）・石井常次（元同技師）・紅村弘（日本考古学協会員）の諸氏である。
- 3 本調査報告書は、前記の調査員の各氏が残された実測図・スケッチ・発掘記録などを手掛りとして、伊藤秋男（文学部助教授）・高橋信明（文化人類学研究科修士課程在学）が作成した。全章の内容は、兩名の共同討議を経て成ったものであるが、第1・2・3章は主として高橋、第4章は伊藤が担当し、全体の校閲は伊藤が行った。
- 4 発掘記録帳は、紅村・石井両氏のもの2冊現存する。第2章第2項の発掘経過は、紅村氏のそれを参考とした。第3・5～12・15図は、紅村氏のスケッチおよび原図、第4図は辻氏のスケッチをもとに作成した。
- 5 現在遺物は、京都国立博物館と南山大学人類学研究所附属陳列室との2ヶ所に所蔵されている。個々の遺物の在所については、第3章 遺物目録の項を参照されたい。
- 6 京都国立博物館に所蔵される遺物については、これまでに「古代にみる熱田のすがた」（名古屋・昭和45年）、平安博物館の平日展示（京都・昭和46年）、「尾張平野のあけぼの展」（一宮・昭和47年）、「愛知の古鏡」（名古屋・昭和51年）、「古代のまつり」（神戸・昭和52年）の展覧会に陳列されたことがある。
- 7 遺物の実測には伊藤・高橋のほか、小原博樹（名古屋市立日比野中学校教諭）・榊原芳久（愛知県教育委員会）・梶山（旧姓山本）万里子（人類学科卒業生）の諸氏があたった。
- 8 第23図は梶山勝氏（名古屋市博物館）がトレースし、他のすべての挿図のトレースおよび版組は高橋が行った。
- 9 現場写真および京都国立博物館が所蔵する遺物については、調査当時、石井常次氏が撮影したものである。南山大学が所蔵する遺物は、伊藤が撮影した。
- 10 白山藪古墳関係文献目録の作成には、松原隆治（文化人類学研究科修士課程在学）・伊藤和彦・河村いづみ（ともに人類学科二年在学）の諸君があたった。
- 11 南山大学人類学科では、これまでに梶山（旧姓山本）万里子『名古屋市北区楠町白山藪古墳について——内部構造とその出土遺物に関する一考察——』（1974）と前田（旧姓新美）十史子『古墳主体部にみられる特殊施設について——白山藪古墳の埴積み遺構を中心に——』（1977）の2編の卒業論文がまとめられている。本報告書の作成にあたって、それらの成果

の一部を参酌した。

- 12 遺物の実測調査のとき，京都国立博物館の鈴木博司・八賀晋・難波田徹の諸氏には大変お世話になった。この紙面をかりて深謝したい。
- 13 京都国立博物館における遺物の実測調査は，昭和44年6月に行われた。この調査の遂行にあたっては，昭和44年度南山大学特別研究費による助成があった。